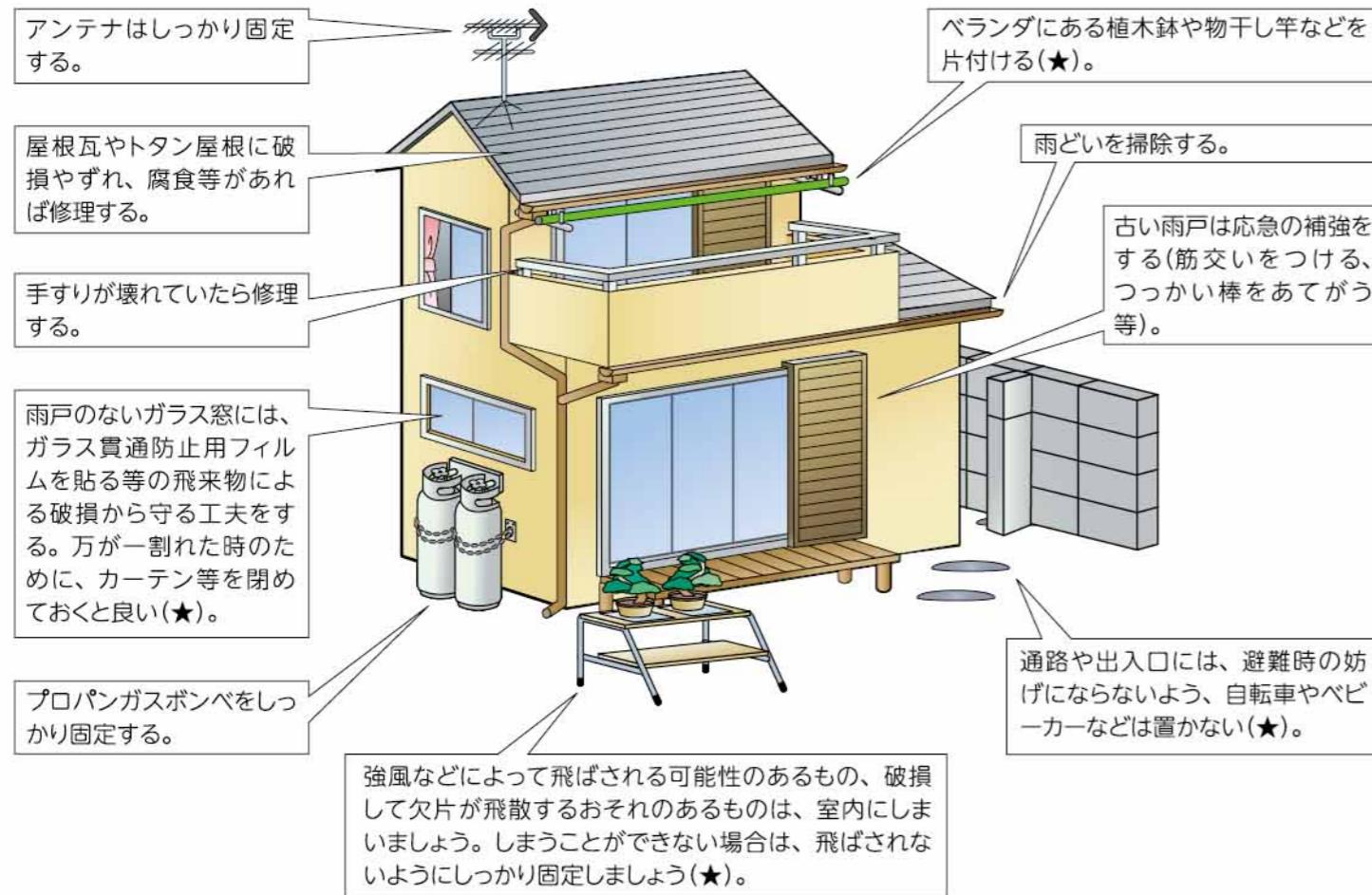


洪水に備える

風水害はある程度予測ができる災害です。最新の防災情報を入手し(P40参照)、準備をしましょう。
また、ゲリラ豪雨など突発的な災害で被害がでないように、日頃から備えましょう。

家屋と周辺の備え

気象情報をチェックして、大雨や強風への対策をとることで被害が軽減できます。天候が悪くなる前に防災・減災準備を始めましょう。



◆側溝・雨水ますの事前準備

- 道路の側溝や雨水ますの詰まりは、道路冠水や浸水の原因となります。
- 上にブロック等を置かないでください。
- 日頃からの清掃にご協力をお願いします。



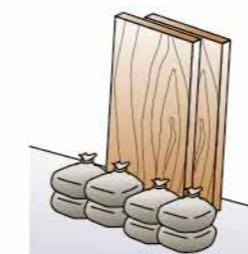
◆樹木(高木)の剪定(管理)

- 倒木により電線や電話線が断線すると、長時間にわたり停電・通信障害が発生するおそれがあります。
- こうした事故を未然に防ぐために、樹木の所有者は、伐採や枝払いなど適切な管理をお願いします。



◆浸水の事前準備

- 浸水が予想される場合は、土のうや止水板を準備しましょう。
- 半地下建物や地下室のある家屋等は、必ず排水設備(ポンプ)の整備・点検等の浸水対策を行いましょう。



◆地下空間の危険性

- 浸水時、地下空間は換気口や採光窓など、思わぬところから水が入ってきたり、地上からの水の圧力で、ドアを開閉できなくなります。また、停電により真っ暗になります。
- 屋外の天候に変化があったときは地下空間から移動しましょう。また、備蓄品(P38参照)や土のう等の浸水対策用品は地下空間に保存しないようにしましょう。

■屋内の浸水対策

◆家財の移動

- 家財や家電などは浸水の被害を受けないように、高所や2階に移動させましょう。
- 電気のコンセントは漏電、ショート、感電などが発生する可能性があります。家電製品等はコンセントを抜き、低い位置にあるものは高所へ移動させましょう。



◆排水口からの逆流防止

- 水のうを風呂場や洗濯機の排水口、トイレの便器の水たまりの上に置いて逆流を防ぎましょう。
- 水のうは自宅にあるビニール袋で簡単に作ることができます。



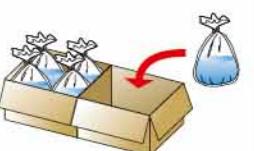
簡易水のうの作り方

- ごみ袋などのビニール袋(45リットル程度)を2重にして、半分程度水を入れて、袋の口を縛ります。



簡易水のうの使い方(浸水防止)

- 出入口などに隙間なく並べて使用します。ダンボール箱等に入れて連結すると、強度が増します。



■避難の備え

◆安全な避難のために

- 事前に家族などで安全な避難経路を確認しておきましょう。たとえ近道でも、川や橋の近くは迂回しましょう。
- 自宅の近くの「まるごとまちごとハザードマップ」を確認しておきましょう。想定される浸水深と、避難所が記されています。
- 「マイ・タイムライン」を作成して、避難行動を事前に整理しましょう(P45参照)。避難行動は一人ひとり違います。個人や地域にあった「マイ・タイムライン」で、あわてずに行動しましょう。



◆非常持出品と装備品を揃えましょう

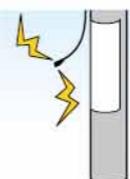
- 非常持出品(P39参照)を準備しましょう。避難所で直ちに食料や毛布が支給されるとは限りません。
- 雨具や運動靴など、安全に避難できる服装を用意しておきましょう。長靴は中に水が入って動けなくなるため、浸水時には不向きです。



■洪水の後の行動

◆断線しているか確認

- 断線(切れた電線)がないか確認しましょう。
- 断線を見たら電力会社や電話会社等に通報しましょう。
- 切れた電線には近づいてはいけません。



◆危険物を確認・除去

- ガスや石油などの漏れ出し、プロパンガスボンベに異常がないか確認しましょう。
- 危険を発見したら周囲の人とガス会社、消防署に通報しましょう。



◆浄化槽を確認

- 断線がないか、蓋が外れていないか、薬剤筒が倒れていないか確認しましょう。
- ポンプやプロア(送風機)、浄化槽上部のコンクリートに破損がないか確認しましょう。



◆衛生対策を徹底 <水害の片付けの基本は、汚れ除去 → 乾燥 → 消毒>

- 室内
泥や汚れを洗浄や拭き取りにより十分に取り除いた後、消毒を行いましょう。水洗いできる食器などは洗浄し、水洗いできない冷蔵庫などは汚れをきれいに拭き取ります。
- 室外・床下
室外や床下は、土砂等を取り除いた後、水道水で洗い流し、しっかり乾かします。湿気を残すと家の基礎や土台を痛めます。完全に乾燥させましょう。